



むぎの郷

August 2014

つうしん

発行/麦の郷情報管理委員会
〒640-8301 和歌山市岩橋643
TEL(073)474-2466 FAX(073)473-0430
<http://www7.ocn.ne.jp/~ichibaku/>

“麦の郷とは” 住民のニーズから生み出され、
住民の手によって育てられる

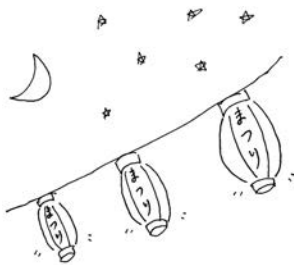
ソーシャルファームピネル/くろしお作業所/くろしお作業所分場/
麦の郷訪問看護ステーション/麦の郷居住福祉事業所/はぐるま共同作業所/
はぐるま共同作業所 和の杜/けいじん舎/麦の郷印刷/はぐるま共同
作業所 ラ・テール/障害者就業・生活支援センター「つれもて」/
ホームヘルプ麦の郷/麦の郷 和歌山生活支援センター/麦の郷紀の川・
岩出生活支援センター/ハートフルハウス 創/おぎピース/障害児者
サポートセンター「麦の郷」/こじか園/第二こじか園/こじか親子教室
/麦の郷高齢者地域生活支援センター/ソーシャルファームもぎたて/
事務所/麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所



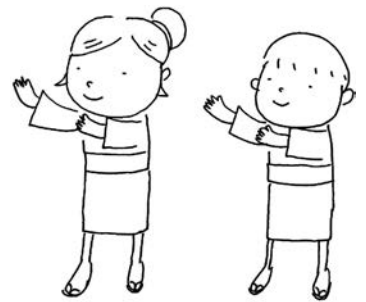
第20回 西和佐地区・麦の郷夏祭り 8.7(木)



第37回 障害者・市民の夏祭り 7.19(土)



おどるんや
～紀州よさこい祭り～ 8.2(土)/3(日)



私たちのめざすもの ～麦の郷4つの理念～

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々とつながりを深め、ともに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。



「精神科病棟 転換型居住系施設」の 問題について

■この問題の出た経緯について

2013年6月に精神保健福祉法が改正され、厚生労働大臣は「良質かつ適切な精神障害者に対する医療の提供を確保するための指針」を策定することになる。この指針の検討のため、2013年7月から11月の間に「精神障害者に対する医療の提供を確保するための指針等に関する検討会」が計7回開催された。

同検討会の中で「病棟転換型居住系施設」構想が伊藤弘人氏（独立）国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所社会精神保健研究部部長）、岩上洋一氏（NPO法人じりつ代表理事）から提起された。岩上氏は、「長期入院者への地域生活の移行支援に力を注ぎ、また、入院している人たちの意向を踏まえつつ、病棟転換型居住系施設、宿泊型自立訓練、グループホーム、アパート等への転換について、時限的であることも含めて早急に議論していくことが必要。最善とはいえないまでも、病院で死ぬということ、病院内の敷地にある自分の部屋で死ぬと言ふことには大きな違いがある」とした。（岩上氏配布資料より）

7回の開催された検討会では決着を見ず、2014年3月28日に新たに設置された「長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方策にかかる検討会」において継続して検討し6月までに結論を得ることになった。

最終日6月17日には議論がまとまらず、2014年7月には長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方策の今後の方向性（長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方策にか

かる検討会取りまとめ）がだされた。強く批判された精神科病棟転換型居住系施設は厳格な条件の下で試行的に実施し、結果を検証することとなった。

■この問題の本質を見抜けるか

〜ソーシャルワーカーの真髄が試される〜

岩上氏が精神科病院に長く入院し、そこで人生を終える患者がいることに対して、地域で活動する人たちの熱意と知恵を政策に生かし、硬直した状況を動かしたいという思いで、転換型居住施設を提案したと言った。

私は日本の国が取ってきた、精神障害者への隔離収容政策の歴史から学び、障害者権利条約の中から障害者の権利保障を学び、当事者である長期入院経験のある精神障害者の語る言葉から学んだ。いかに実践の中から現在取りうるべき方策として最善と思われる方法を岩上氏が提案しているといえども、私はソーシャルワーカーとしての真髄、価値を忘れてはいけないと思う。それを抜きに考えられた方策は一見良いもののように見えても、根本的に間違っていると言わざるを得ない。

今まで国がとってきた精神障害者への施策は人権を無視した二級市民でもよしとしたものであり、また国民側にも精神障害者への偏見が根深くあり、困ったこの問題解決が精神科病院への押しつけになつてきていたことがあったことは否めない。地域で支援を続ける医療や福祉がなかなか進まなかったのはこのようなきまざまま要因が絡み合つてのことであるとして日本は世界一長期



ある。」とのことでした。

上田さんが、「10年間電動車イスを使用してきて無事故だったこと、操作するときには必ず助手者が着くこと、作業中に電動車イスで物運びをすること、夢である車イスサッカーをすること、そして、自らで動けることを実感できること、など」公判の中で主張や障害者権利条約の「他の者との平等性・公平性」は裁判長には全く届きませんでした。判決後の弁護士会館での報告集会の中でも参加者から怒りの声が多々出されていました。

三権分立への期待、良識ある判断への期待が大きく崩されたが、これが現実として受け止め、悩んだ上に控訴を決議された上田さんとご両親を弁護団の方と共に今後も応援していきます。社会保障全般の切り崩し施策はますます強まりを見えています。障害のある人の地域で豊かに当たり前の暮らし権利が奪われないようにあきらめずに声を上げていきましょう。

（鈴木栄）

産廃処分場反対のとりくみ

みなさん ご存じですか？

巨大な（甲子園球場3倍くらいの大きさ）産業廃棄物最終処分場が上黒谷に建設されようとしています。ここが園から北の方向の山の上に計画されています。実はこの計画を山口地区連合自治会は2011年5月から反対運動を続けてきています。署名を集めたり、山口地区で学習会をしたりしていましたが、2014年3月10日に処理業者が産廃処理二つの計画書と報告書の三文書を和歌山市に出したことで産廃の許可に向けて大きく動きました。山口地区ではもう一度署名を集め、産廃処分場ができるかどうかの影響が出るのか、地域のあちこちで学習会を



橋本車いす裁判 判決報告会

の精神科病院の社会的入院を生み出した。この問題の本質を深く捉えるときに、精神科病院の構造転換を図るために精神科病棟転換型居住系施設の施策を取るのではなく、地域で当たり前の生活を保障するためにこそ、国の政策は作られなくてはならないはずである。

検討会の中で話し合われていたのは、精神障害者の地域移行を進めるために、良質かつ適切な医療の確保をするという目的のために話し合いがされていたのではなく、長期入院精神障害者の病床が減少することで病院経営をどうしていくかに議論は傾倒、集中していた。精神科病棟型居住系施設は結局、長期入院精神障害者を退院させても、病院内に囲い込み、病院に収入が入るようにするための方策、入院患者数を数の上で削減させるためのものであった。

■この問題をきっかけに
〜改革への一歩とつづ〜

国が検討会を足早に進めていったのと並行して精神障害者当事者や家族、関係機関が結集してこの問題のおかしいところに声をあげて反対し、大きな運動を作り出していった。この問題が人権問題であるということも踏まえ、そのうえで長期入院精神障害者の問題をどの様に解決していくのか、真の地域移行、地域生活を現実させるために、どのような施策、支援が必要なのであるのか。すでに2011年8月に示された「障害者総合福祉法の骨格に関する総合福祉部会の提言」（骨格提言）に基づいて国は早急に政策に着手されることを望む。

私たちは今後とも各地域で精神障害者当事者、家族、関係機関が議論を重ねて、地域で受け皿をどう作るのか話し合いを持っていきたい。そして地方から国に政策提言していきたい。だれもが傍観者になるのではなく、一人一人自分の問題、責任としてこの問題を語り合行っています。こじか園でも6月18日（水）、7月18日（金）プレイルームで学習会が行われました。6月18日（水）は公民館長さんや関係者の方々30名が集まり、こじか園の職員も一緒に聞かせて頂きました。7月18日は山口地区と平原地域（紀伊地区）の方々がプレイルームいっぱいになる7人くらいがこられました。山口地区だけの問題でなく自分達の問題として考えていきたいと平原地区の方々からも意見が出ていました。実は産廃処理場が建設される予定地は標高230m〜300mの位置にあり、極めて破壊しやすい場所です。巨大な構造物（産廃）を造ると山にある池（新池側）への斜面崩壊のリスクが高まること予想されるようです。斜面崩壊は最悪の場合土石流が山口・紀伊を襲い下流部の住宅が被害をうけるかもしれません。また、七瀬川に流入した汚染水は紀ノ川に入り、加納・真砂・出島浄水場から和歌山市の水道に入り和歌山市民の口に入ります。近くには、海南の水道水の水道取水口もあり、この産廃処理場によって地下水・表流水が汚染されれば、広範囲の人々の健康がおよびかされる恐れがあります。

こじか園は自然豊かな地域で、毎日子どもたちの保育ができ、子どもが育つ環境としては抜群です。この環境が壊され川が汚れトンボ、ホタルなどがいなくなったり、また悪臭が漂ったりすることに保護者、職員も危機を感じています。この問題が山口だけでなく和歌山市民の問題として山口地区の方々や保護者と共にこの危険な産廃処分場建設を止めていく運動をしていきたいと思っています。



こじか園

車イス訴訟判決、 豊かに生きる権利が 奪われぬよう！

（川村）

去る7月11日、暑い日でしたが、和歌山地裁202号法廷室は全く予期せぬ判決に凍りつきました。暑い中地裁に駆けつけた車イスの仲間たちを含めた30名以上の傍聴者に、橋本真一裁判長が下した判決は、「原告の請求は棄却する。裁判費用は原告の負担とする。」と、わずか1分足らず本文を述べたのみで何の説明も無いまま退席しました。あまりにも一瞬のできごとで理解できず、不当判決！と、怒りが沸いたのは裁判長が退室した後でした。

この訴訟は、橋本市在住の重度の身体障害者である上田新さん（26歳）が、橋本市の電動車イスの購入費支給決定取り消し処分をめぐり、電動車イス存続の正当性を2年間訴えてきました。内容としては、上田さんが2011年12月リウライニング型電動車イスの購入費を市に申請し、市はいつたん認められた後、2012年3月に「電動車イスの基本操作が困難であり、他者に危害を加えた場合、市への責任追及が免れない」として支給決定を取り消した。上田さんは、障害者総合支援法の障害者の補装具費支給の条文や障害者権利条約の条文に照らして公判にて主張してきた。しかし、判決は「支給決定を存続させれば、上田さんや第三者に危険が及ぼすおそれ

麦の郷へようこそ！ 新人研修会



6月21日(土)10時～15時、麦の郷ホールにおいて新人職員研修を開催しました。子ども支援部の研修として個別に実施されたこじか関連施設以外の全事業所の新人職員が対象となりました。

「麦の郷で働く職員として必要なものは？」というテーマのもとで、9名の新人職員の皆さんがそれぞれの視点からの講義を学びました。

【第1講座】

麦の郷の歴史を知ろう！
講師 森 貴孝
(麦の郷印刷施設長)

【第2講座】

障害に関する制度や
施策を知ろう！
講師 上田路子
(和歌山生活支援センター長)

【第3講座】

人権問題や発達保障の
理論を知ろう！
講師 藪 博美
(こじか相談室発達相談員)



研修終了時には「日頃交流のない事業所の仲間と共に、学ぶことができ新鮮だった」「法人の歴史や、福祉施策、発達保障のことを学ぶことができてよかった」「これからの仕事に生かしていきたい」など、参加者から感想が出されました。また、昨年に引き続き、教育研修委員会委員長より修了

設備の規模

【設備の規模】作業室4室 199・25㎡
多目的室1室 38・0㎡
相談室1室 12・48㎡
便所1カ所 53・75㎡
【機械設備】消毒殺菌槽 柿皮むき機3台
柿ヘタ取り機3台
食品乾燥機3台 真空包装機
回転釜50ℓ など

沿革

2001年8月 労働部門の新たな開拓事業として紀ノ川農協と提携した店舗販売「オープンカフェ風車」が本格化
2008年10月1日 けいじん舎就労継続支援(A型)の開設
2010年9月 紀ノ川農協業務委託 (けいじん舎出張所)のスタート
2011年8月 もぎたて農産加工所開始 (けいじん舎出張所)
2012年4月 もぎたてファームと
もぎたて援農隊スタート
2014年4月1日 ソーシャルファーム
もぎたて就労継続支援(A型)の開始
(中原)



証書が手渡され、それぞれが、元気に日々の実践に臨む決意を新たにしました。(鳥)

修了証書

あなたは、当法人が主催する2014年度新人職員研修を修了されたことをここに記します。
この度の研修では、「麦の郷の歴史」「障害福祉の制度や施策」「人権及び発達保障の理論」など必要知識について、新人職員の皆さんが、貴重な学びの時間を共有されました。法人として、ここに深い敬意を表します。

新人職員の皆様におかれましては、本日の研修における自分自身の「気づき」と「共感」を起点とし、下記に掲げる「麦の郷がめざす理念」に基づきその使命を果たすべく、より深い学びと実践(運動)の遂行に尽力されることを期待します。

麦の郷という組織にとって「人は宝」です。私たちひとりひとりの働きが、現状を変える力になります。障害のある人たちが、より豊かに生きることが出来る社会・地域づくりに向けて、ともに頑張ります！

2014年6月21日
社会福祉法人一栄会
理事長 田中寿樹

～わたしたちのめざすもの～ 「笑顔と元気」もぎの郷プラン2013～2017より

- ◎ 理念
◎ 麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- ◎ 私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互に豊かになる実践を目指します。
- ◎ 私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々とつながりを探り、ともに社会変革をめざします。
- ◎ 麦の郷は、全ての人が平和で安心して暮らせる社会づくりのために、人の輪を動いていきます。

ソーシャルファーム もぎたて開所

「ソーシャルファームもぎたて」は名手(紀ノ川市)から北側に登った平野という地域にある。紀ノ川農協という販売専門農協の敷地内を拠点に事業を展開している。麦の郷と紀ノ川農協の事業連携は、2001年8月にファーマーブマーケット紀ノ川「ふつの丘直売所」がオープンした際に直売所入口で軽食・喫茶の店舗運営のお誘いからオープンカフェ風車をスタートさせた。

それから10数年。けいじん舎の出張所としてオープンカフェ風車、農産加工所、農業・援農、紀ノ川農協からの下請けなどの事業運営をしてきたが、更に雇用拡大や地域での役割を担うために新事業所として2014年4月にけいじん舎から独立。5月8日(木)は新事業所としてソーシャルファームもぎたて(就労継続A型)の開所式をおこなった。開所式には約130人の

手作り楽器で カチャカチャ演奏会

もぎピース出張所
ポングリ図画耕作所開所



2014年6月18日にむぎピースの出張所として、紀ノ川市粉河の大正時代からの築約100年のお屋敷、山崎邸の蔵の2階にて「ポングリ図画耕作所」が開所しました。

開所して約一カ月半、現在ポングリ図画耕作所ではそれぞれがアーティストとして絵を描いて手ぬぐいを二種類作りました。

嬉しいことに色んな方に「かわいい!!」と褒めていただき、大好評で順調に販売させてもらっています。8月に大阪で行われる手ぬぐい展からもお誘い頂き出店する予定です。

手ぬぐいに続き、張り子や紙粘土で作った絵つけをする「ポングリだるま」や、けやきや桜や朴ノ木にデザインして、それをカットし、みんなで削り磨いて、ブローチやヘアゴム、木のボードを一つ一つ丁寧に作る「手仕事」なども修行中です。

他にも「ポングリちんどん楽団」として、白塗りメイクに着物衣装でお祭りの盛り上げ隊やお店の宣伝部隊として、まだまだ練習中ですが

関係者の方々の出席があった。

ソーシャルファームもぎたて 基本理念

- ◎ ビジョン ～目指すべき姿～
- ・ 全ての人が労働をとおして自己実現の挑戦ができる社会
- ・ 働くことを通じて幸せが追求できる事業体
- ◎ ミッション ～果たすべき使命～
- ・ 地域であたりまえの暮らしを実現するための所得保障
- ・ 地域産業である農業を社会的弱者が事業を通して応援する

私たちは、社会的問題を社会的弱者が事業によって解決するという社会的企業に挑戦している。同時に、世界の潮流であるディーセント・ワーク(人間の尊厳を尊重した働きがいのある仕事)を実現していく

事業概要

- 【事業所名称】 ソーシャルファームもぎたて (事業所番号30011700642)
- 【事業開設】 2014年4月1日
- 【所在地】 和歌山県紀ノ川市平野927 (紀ノ川農協内)
- 【従業員数】 12名(定員15名)
- 【代表者】 中原 力哉
- 【職員】 管理者&サービスマン管理責任者1名
職業指導員4名、生活支援員1名
- 【農業】 もぎたてファーム
- 【援農】 もぎたて援農隊
- 【事業内容】 農産加工(もぎたて農産加工所)
喫茶・軽食(オープンカフェ風車)
- 【その他】 紀ノ川農協業務委託

活躍できるようにがんばっています。

そんなポングリ図画耕作所ですが、6月末にはむぎピースのみなさんと交流会として山崎邸で簡単な楽器作りをしました。好きな形の木を選んで、好きな絵をそれぞれの色で塗ってもらい、それができたらビール瓶のふたをつけてカチャカチャと音が鳴る、鳴子のような楽器の完成です。

むぎピースの皆さんは、工作や絵を描くことにとても慣れている様子で、スラスラとおもしろおかしく絵付けされてる方が多かったです。

ポングリ図画耕作所のメンバーの坂上さんは、きれいなお花の絵を描くむぎピースのメンバーさんに「お花きれい!かわいい」とずっと隣に座り、とてもいい刺激になった様子でした。

約一時間程で完成し、全員ができたところで三線や、チンドン太鼓に合わせてみんなでカチャカチャとプチ演奏会をしました。

同じ楽器でもそれぞれの鳴らし方で、やさしく鳴らす人、踊りながら鳴らす人、激しく鳴らす人、色んな音が響きわたり、とても楽しく過ごせました。

今回の交流会で、友達ができた
と喜んでいたので、ちよくちよく
合同で何かできた
らと思います。

(奥野)



いざ、淡路島口帰り旅行へ!!

くろしお作業所分場 ウェブ部め組



淡路島口帰り旅行へいってきま
した。
和歌山駅東口8時発、職場から
近い某コンビニ8時30分発で、い
ざ、淡路島へ向けて出発。

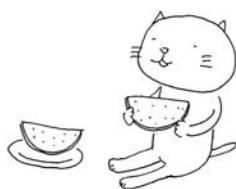
3時間程度の行程で、淡路島サービスエリア
のハイウェイオアシスにて休憩し、明石海峡大
橋をバックに集合写真を撮影。
そして、11時30分には、イングランドの丘へ
到着し、イングランドの丘のスタッフの方が少
しても歩かなくてもという配慮なのか、中心に
近い場所までバスを誘導してくれました。
乗り物に乗ってみようと初めは思いました
が、雨が着いた途端に降ってきたので却下とな
り、しかし、ファームへ行くと雨が上がりまし
た。

イングランドの丘には、お花畑や雄大な景色
もあり、見るということを楽しめたかなと思
いました。

あと、ファームでは、動
物とのふれあいの場があ
り、大きなカメやうさぎが
自由気ままに動き回ってい
るので、なかなか写真が撮
れないこともありましたが、なんとか最後には写真
に収めていました。
仲間の笑顔も見られて、
来てよかったと思いまし



た。
昼になり、予約していたし
ストランへ：メニューは、B
BQで食べず嫌いばかりある
Tさんは、行く前から「肉を
食べる」宣言をしていた、有
言実行！完食しました。
これを機に、食べず嫌いが
無くなればと思います。
帰路に向かう前に、お買い物レク、それが仲
間の一番楽しみにしていたことだったので、自
宅に、中には、いつも御世話になっている人
へ、そういうことを思いながら、二つ三つとお
土産を買っていました。
日帰り旅行が終わり、週明けに「疲れた人は
居ますか？」と朝のミーティングで聞いてみる
と仲間には、20代、40代、50代の様々な方が居
ますが、50代の仲間の大半が「疲れた」という
感想でした。
あとの年代の仲間は「楽しかった」という感
想でした。
(前田)



「梅ジューズ飲める
ん？」「ソーセイジ食べる
ん？」「合宿楽しみや
なあ」と色々な声があがり
ました。なかまは、それぞ
れ何らかのイメージをもつ
て合宿に行くことを楽しみ
にしてくれていました。
梅ジューズづくりではみ
なべの梅についてのお話
や、梅はバラ科の植物であ
ること、梅パワーはすごい
ことをお話しいただき梅
ジューズづくりを体験して
きました。
インブタソーセイジづく
りでは氷を入れて粗
引き肉を混ぜることを知
り「わー冷たい！」と言
いながらしっかりと混ぜ
ました。その混ぜた肉を
豚の腸に詰めていくので
すが、慎重に進めている
つもりでも少し力を入れ
すぎると「破れた！」と、
ここでは加減とコツが大
事なことを知りました。
日々の作業の中でも「ソ
ーセイジ食べた。おいし
かった！」「梅ジューズ
の氷砂糖ちよっと溶け
た。」「梅ジューズ飲
んだ。」「(梅ジューズ
の梅を)ジャム(にして
、それを)をパンにつ
けて、チョコレートグ
ット。」と感想を聞か
せてくれます。



合宿

はぐるま共同作業所 製菓事業部

はぐるま共同作業所 製菓事業部では毎年1
泊2日で合宿をしています。この合宿は、「日
常とは違う体験をする。家族と離れてなかま
と過ごす。」を目的とした取り組みです。
今年は南部で「梅ジューズづくり」とすさみ
で「インブタソーセイジづくり」をしてまし
た。

「温泉でゆつくりお風呂に入る。」「みんな
と食事をする。」「誰と同じ部屋に泊まるのか
な？」「このテレビはゆずれない！」みんなが
それぞれ一泊で出かけることは楽しみにして
くれているのでまた来年も行きたいと思いま
す。
次はなかまのどんな反応が見られるか楽し
みます。
(大垣)

あいあいホームと ひびきの郷の合同レク

今年で3年目となる、あいあいホームとひ
びきの郷の合同レク。

昨年は、並観賞をしたのですが今回、和歌山
県福祉保健部の方より連絡があり、株式会社口
イヤルコーポレーション様の「厚意によりチ
ケットを頂く事ができ、野球好きななかまも
多かったため、今年は野球観戦レクというこ
じになりました。

京セラドームまで、あいあいホームとひび
きの郷のなかま、当日の職員さんとボランティア
の職員さん、合計11名で電車に乗って行っ
てきました。

電車を利用したのは、普段あまり電車を利用
する事がないなかまが多く、年に1度の合同レ
クだから、電車で行って帰ってくるのも良い経
験になり楽しめるのではないかと、という考えも
あり今年には電車で行くことになりました。

紀伊駅から大正駅まで行き、1時間ぐら
いに揺られ、着いた頃はお昼前でした。

昼食は京セラドーム隣にあるイオンのフ
ードコートにてそれぞれ好きな物を注文して
食べました。

イオンが近くにあるという事により、店
内から下りムまで行ける通路があり、また、
広い店内やエスケーターがあったので、車
椅子を使用しているなかまも快



適に移動することができた様
に思います。
昼食を終え、ドームの中へ
行き、オリックスVS中日の試
合を観戦しました。
選手のユニホームやグ
ッズなどを購入したり
して嬉しそうなかまの姿
も見ることができました。
当日は暑かったですが、
幸いにもドームの中だ
ったので良かったと思
います。
試合のほうも中々良い
試合で、ホームランを
生で2回も見ることが
でき、帰りの電車の込
み具合も考えたりして
いたのですが、最後まで
見えました。
反省点としては、帰
りは人が多く、電車も
満員でしばらく座れる
席がなく、なかまには
しんどい思いをさせて
しまったのではないかと
思いました。
以上の点もふまえて
来年は、もっと、なか
まが快適で楽しめる
合同レクにできるよう
頑張っていきたいと思
います。
最後にこの場をお借
りして、今回チケット
を頂きました、口イヤ
ルコーポレーション様
に深く感謝申し上げます。
(鈴木重)

第20回 西和佐地区・ 麦の郷夏祭り 開催!

去る8月7日(木)に、第20回西和佐地区・
麦の郷夏祭りが開催され
ました。
準備も含め、当日の台
風による悪天候が心配
されましたが、この
日しかないというタイ
ミングで天候は回復し
ました。20回の夏祭り
で、雨天期や中止を一
度もしなかったこと
がなかったた



で、週間天気予報では雨の予報であ
っても、開催できるという予感
は的中でした。
今年も、来賓の皆様にご挨拶
を頂いたあと、西和佐エプロン
コーラスさんによる「歌や、
麦の郷おどり隊による「よさ
こい」、つばさの会の皆さん
による「ぶんだら節」、そ
して、クラウディーハーツ
による「バンド演奏」と、祭
りは楽しく過ぎていきました。
この20年の祭りを振り返ると、
第1回目：本当に人が少
なくて、周りを見渡せば関
係者ばかりだったのを覚
えています。あの時、この
祭りが20回も続き、こん
なにたくさんの方が賑
う祭になるなどは、全く
想像できませんでした。
また、カレー事件があ
った年の開催は、鮮明に
覚えています。当然、中
止になるだろうと思
い、故岩井連合自治会
長に相談に行ったとき
、「こんな時だから、開
催しないといけない!毎
年開催していくことに
意味がある!」と言われ
、中止なんか考えた自
分が恥ずかしくなりな
りました。そして、開
催すると、予想以上の
たくさんの方々が参加
してくれて、本日に祭
りを楽しみにしてく
れているんだと、改めて
実感しました。
この祭りは、地域の方
々をはじめ、たくさん
の方々に支えられ実施
されてきました。
本日にありがとうござ
い
ました。
そして、これからも、
一緒に歴史を作ってい
きましょう!
(山本哲)



助成ありがとうございました

はぐるま共同作業所 製菓事業部

和歌山県共同募金会様よりフードカッターの購入に助成をいただきました。今までは手作業でしていましたが、早くきれいにカットでき作業がスムーズになりました。ありがとうございました。

くろしお作業所

和歌山県共同募金会様より冷蔵庫の助成を頂戴いたしました。なかま・職員合わせて毎日60人以上の給食を提供するに当たり、今日も新鮮でおいしい食事を作ることができます。みんなの「おいしい」の声が聞けてとても嬉しいです。本当にありがとうございました。

こじか園

開園より使用し、18年目を迎え修理部品も入らず困っておりましたところ、この度、和歌山県共同募金会様より平成25年度共同募金助成金として助成頂き、業務用冷凍冷蔵庫を購入することができました。大変ありがたく大喜びです。

さっそく大活躍で、園児の為の給食作材料を保冷し、安心して保存ができるようになりました。本当にありがとうございました。



柿 kaki ドレッシング (はぐるま共同作業所 ラ・テール)

「昔はごくごく当たり前だった、
地元でとれたものを食べること」



地場産自給率100%を目指して地元を元気にする！
現在の地場産自給率79.3%（重量ベース）

つくり手の思いが詰まった厳選材料

- かつらぎ町産 柿
- かつらぎ町産 米酢
- かつらぎ町産 米油（築野食品）
- 紀の川市産 米酢
- 有田市産 みかんはちみつ
- 有田市産 みかんジュース



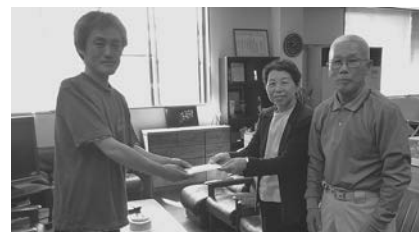
円応教紀の国教会から ご寄付を頂きました

円応教の皆様から、毎年ご寄付を頂いています。

このご寄付は和歌山市駅の街頭に立って集めて頂いたりしてくれています。

感謝の気持ちを忘れず、有効に使わせて頂きます。

円応教紀の国教会の皆様、本当にありがとうございました。



くろしお作業所
神田 宗忠

くろしお作業所の神田です。くろしお作業所で働かせて頂き、3年が経ちました。くろしお作業所では、たんぼぼ班の一員として活動に取り組んでいます。たんぼぼ班では、重度のなかまと共に軽作業を中心に活動に取り組んでいます。働き始めた当初、作業の内容もわからず、なかまから色々一つ一つ教えてもらいました。自分の父と同年のなかまからも「息子！」と冗談交じりで可愛がってもらったり、体調の悪い日には、なかまから「大丈夫？」と気遣ってもらいながら、あっという間に3年が過ぎました。あっという間の3年でしたが、密度の濃い3年でもありました。

また偶然にも、くろしお作業所で働き始めた日が、自分の誕生日でした。つまり、私はくろしお年齢3歳になったばかりです♪これからも、なかまと共に歩いていき、くろしお年齢5歳、10歳、20歳と年月を重ねていき、なかまと一緒に振り返った時、楽しい思い出話がたくさん出来るようになりたいと思っています！！